

2019年10月23日(水)

『卓話』

湖山 浩行 会員

皆様、改めましてこんにちは。出席委員の湖山です。

初めての卓話です。

ここ数年間で一番緊張しています。

他愛のない話かもしれませんが、よろしくお願ひいたします。

先ずは、この機会に改めて自己紹介をさせていただきます。

名前は湖山浩行です。

愛知県津島市生まれでB型です。

余談ですが、先日のさくらの会で森山プロが「B型の人にはアスリートが多い」とのコメントに説得力を全く感じていませんでした。

続きまして、趣味はマウンテンバイクです。

年二回ほど王滝村まで一周100キロのクロスカンントリーレースに参加しています。

ゴルフで100切りした暁には趣味にゴルフも加えます。

特技はTVゲームとラジコンです。

「ストリートファイター2」で全国大会、「田宮RCカーグランプリ」では優勝しています。

そして、現在は妻一人・子ども二人と羽島市福寿町で暮らしています。

ちなみに自宅半径200m以内の飲食店の数は13店... いずれ15店になる予定です。

ここからは本題に入りまして「ありがちな事故と意外な過失割合」についてです。

交通事故や過失割合につきましては大義の通りです。

事例1では通路進行の車両が駐車区画から退出の車両より優先となり30:70となります。

事例2も同様に通路進行の車両が優先となり30:70となります。

ここで大切なのはドライブレコーダーです。客観的証拠がトラブル防止につながります。

事例3は非接触事故の例です。

たとえ接触してなくても過失は発生します。

事例4は合流の例です。

合流する車両に7割の過失がありますが、このケースは交差点付近のゼブラゾーンでも同様な事例があります。

最後にお伝えしたいのが人間の注意力には限界があるということです。

この絵(だまし絵)を見続けていただくことで実感いただけたかと思ひます。

注意力には限界があることを念頭に口頭注意に留まらず、安全作業標準などのマニュアルを活用した事故防止策を講じることをお勧めします。

最後に私の職業「損害保険」についてですが、ある調べでは10年後に絶滅するとのことでした。

何としても絶滅を避け、かつ、社会的地位を構築できるように精進いたします。

本日はご清聴ありがとうございました。

